

北海道観光入込客数調査報告書

平成24年度

平成25年9月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて平成22年度に道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したものです。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

観光地点パラメータ調査により、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に推計した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

平成24年度の観光入込客数は、5,098万人となりました（前年度比110.5%）。

平成23年3月の東日本大震災の影響などにより落ち込んだ観光需要が回復基調に転じたことに加え、観光関係団体等の協力のもと北海道デスティネーションキャンペーンが全国展開されたことや、11月の道央自動車道森・大沼公園間及び前年10月の道東自動車道夕張・占冠間の開通による交通アクセスの向上、国内外の新規路線の就航などにより、5月のゴールデンウィーク後半や冬の悪天候などの影響はありましたが、前年度に比べ10.5%の増加となりました。

2 道内容・道外客・外国人別

道内容・道外客・外国人別にみると、道内容は4,475万人、道外客は544万人、外国人が79万人となり、構成比では、道内容が87.8%、道外客が10.7%、外国人が1.5%となっています。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客は3,526万人、宿泊客は1,571万人となり、構成比では、日帰り客が69.2%、宿泊客が30.8%となっています。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,363万人（構成比26.7%、前年度比116.5%）、第2四半期が2,011万人（同39.4%、同113.9%）、第3四半期が799万人（同15.7%、同105.8%）、第4四半期が925万人（同18.1%、同100.4%）となっています。

<平成24年度 観光入込客数(実人数)>

区 分	日帰り客	宿泊客	計	前年度比	前々年度比	構成比	
第1四半期 (4～6月)	道内容	1,001万人	228万人	1,229万人	115.0%	91.3%	90.2%
	道外客	1万人	118万人	119万人	124.0%	99.2%	8.7%
	外国人	—	14万人	14万人	270.8%	103.9%	1.0%
	合 計	1,002万人	361万人	1,363万人	116.5%	92.1%	100.0%
第2四半期 (7～9月)	道内容	1,520万人	272万人	1,792万人	113.9%	100.3%	89.1%
	道外客	8万人	188万人	196万人	110.7%	101.6%	9.7%
	外国人	—	23万人	23万人	148.1%	92.8%	1.1%
	合 計	1,528万人	482万人	2,011万人	113.9%	100.3%	100.0%
第3四半期 (10～12月)	道内容	435万人	231万人	667万人	105.5%	103.4%	83.5%
	道外客	1万人	115万人	116万人	107.4%	106.4%	14.5%
	外国人	—	17万人	17万人	114.1%	112.5%	2.1%
	合 計	436万人	363万人	799万人	105.8%	103.9%	100.0%
第4四半期 (1～3月)	道内容	557万人	230万人	787万人	99.2%	104.2%	85.1%
	道外客	3万人	110万人	113万人	105.6%	114.1%	12.2%
	外国人	—	25万人	25万人	116.0%	120.8%	2.7%
	合 計	560万人	365万人	925万人	100.4%	105.8%	100.0%
合 計	道内容	3,513万人	962万人	4,475万人	110.0%	98.7%	87.8%
	道外客	13万人	531万人	544万人	111.7%	104.4%	10.7%
	外国人	—	79万人	79万人	138.7%	106.6%	1.5%
	合 計	3,526万人	1,571万人	5,098万人	110.5%	99.4%	100.0%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

平成24年度の訪日外国人来道者数は、79万400人となりました。

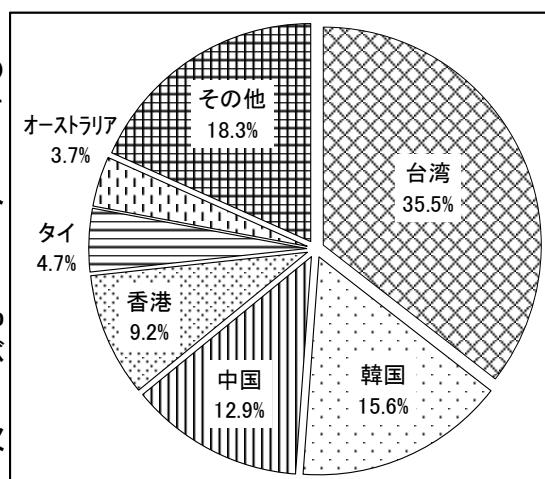
平成23年3月に発生した東日本大震災の影響などによる落ち込みから回復し、10月に直行便が就航したタイからの来道客が大幅に伸びたほか、年度後半には円安が進んだことなどから、前年度に比べて38.7%増加し、過去最高となりました。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は66万1,700人で、前年度に比べて38.3%の増加となりました。

国・地域別で見ると、台湾が28万800人（前年度比146.9%）と最も多く、次いで、韓国が12万3,600人（同137.8%）となっています。特にタイは前年度比281.4%増の3万7,000人となり、非常に大きな伸びを示しました。

来道者数の多い主要な国・地域別の特徴は次のとおりです。



台湾	訪日旅行需要の高まりから、年度前半は前年同期比72%の増加となり、震災前の来道者数を上回る回復を示しました。また、年度後半は、道内地方空港への国際定期便の新規就航やチャーター便による航空座席の供給拡大もあり、通年では前年度比47%の増加となり、過去最高を記録しました。
韓国	原発事故や円高の影響等により、回復の動きに足踏み感が見られましたが、年度後半の円高の緩和傾向などから、通年では前年度比38%の増加となりました。
中国	年度の前半は、日本への渡航制限の緩和による個人旅行の増加などにより前年度比101%の増加となりましたが、年度後半は、日中間情勢の影響により団体旅行を中心に大幅に落ち込み、前年度比40%の減少となりました。通年では、前年度比1%の増加となりました。
香港	円高や景気の先行き不安、原発事故の影響などマイナス要因もありましたが、根強い訪日旅行人気もあり、通年では前年度比29%の増加となりました。
タイ	好調な経済状況や強い北海道人気などに加え、6月に数次ビザの発給が開始されたことや10月にはバンコクと新千歳を結ぶ直行便が就航したことなどもあり、通年では前年度比281%の増加と非常に大きな伸びを示しました。
オーストラリア	冬季における来道者が訪日来道者数の大部分を占める中、スキー需要の回復などから、第4四半期が前年度比32%の増加、通年では同43%の増加となりました。

<平成24年度訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		中 国	韓 国	台 湾	香 港	シンガポール	マレーシア	タイ	小計
第1四半期 (4～6月)	24年度	23,500	26,700	49,800	13,800	5,700	4,300	3,500	127,300
	23年度	9,700	10,200	18,400	3,600	1,300	300	300	43,800
	前年度比	242.3%	261.8%	270.7%	383.3%	438.5%	1433.3%	1166.7%	290.6%
第2四半期 (7～9月)	24年度	35,400	40,900	81,000	22,600	7,200	6,700	10,200	204,000
	23年度	19,600	32,200	57,600	16,700	6,900	3,300	2,700	139,000
	前年度比	180.6%	127.0%	140.6%	135.3%	104.3%	203.0%	377.8%	146.8%
第3四半期 (10～12月)	24年度	15,000	21,200	72,000	16,400	7,000	3,400	3,800	138,800
	23年度	27,900	16,700	53,300	16,300	6,100	2,000	800	123,100
	前年度比	53.8%	126.9%	135.1%	100.6%	114.8%	170.0%	475.0%	112.8%
第4四半期 (1～3月)	24年度	28,300	34,800	78,000	19,800	3,600	7,600	19,500	191,600
	23年度	44,200	30,600	61,900	19,600	3,400	6,800	5,900	172,400
	前年度比	64.0%	113.7%	126.0%	101.0%	105.9%	111.8%	330.5%	111.1%
合 計	24年度	102,200	123,600	280,800	72,600	23,500	22,000	37,000	661,700
	23年度	101,400	89,700	191,200	56,200	17,700	12,400	9,700	478,300
	22年度	135,500	148,900	183,700	87,100	28,800	21,700	18,400	624,100
	前年度比	100.8%	137.8%	146.9%	129.2%	132.8%	177.4%	381.4%	138.3%
	前々年度比	75.4%	83.0%	152.9%	83.4%	81.6%	101.4%	201.1%	106.0%

区 分		ロシア	米 国	カナダ	オーストラリア	その他	合計
第1四半期 (4～6月)	24年度	2,400	3,000	1,400	2,600	7,100	143,800
	23年度	1,000	2,100	600	600	5,000	53,100
	前年度比	240.0%	142.9%	233.3%	433.3%	142.0%	270.8%
第2四半期 (7～9月)	24年度	4,000	5,600	2,600	2,000	13,500	231,700
	23年度	2,400	4,400	1,700	1,300	7,700	156,500
	前年度比	166.7%	127.3%	152.9%	153.8%	175.3%	148.1%
第3四半期 (10～12月)	24年度	2,400	4,100	2,500	2,800	17,000	167,600
	23年度	1,800	3,300	2,500	2,000	14,200	146,900
	前年度比	133.3%	124.2%	100.0%	140.0%	119.7%	114.1%
第4四半期 (1～3月)	24年度	2,300	11,000	2,900	22,000	17,500	247,300
	23年度	2,200	6,500	1,800	16,600	13,700	213,200
	前年度比	104.5%	169.2%	161.1%	132.5%	127.7%	116.0%
合 計	24年度	11,100	23,700	9,400	29,400	55,100	790,400
	23年度	7,400	16,300	6,600	20,500	40,600	569,700
	22年度	11,300	21,200	9,300	25,600	50,200	741,700
	前年度比	150.0%	145.4%	142.4%	143.4%	135.7%	138.7%
	前々年度比	98.2%	111.8%	101.1%	114.8%	109.8%	106.6%

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

平成24年度の全道179市町村における観光入込客数（実数）を合計した総数（延べ人数）は、1億2,752万人で、前年度に比べて4.4%の増加となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、3,029万人泊で、前年度に比べて4.9%の増加となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数（延べ人数）を見ると、6圏域とも前年度に比べ増加しており、釧路・根室圏9.1%、道南圏7.0%、十勝圏5.4%、オホーツク圏4.1%、道央圏3.8%、道北圏3.4%の増加となりました。

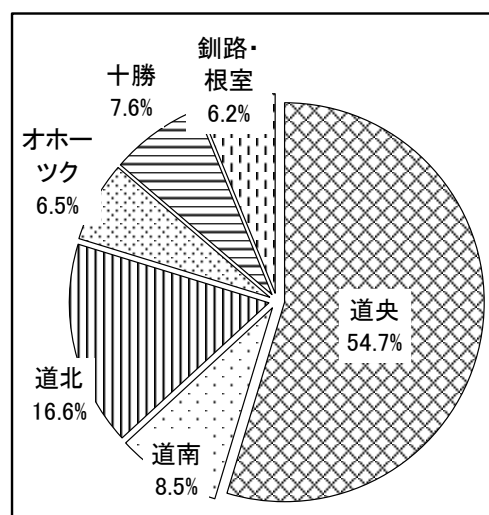
また、宿泊客延べ数でも、6圏域とも前年度に比べ増加しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

道央圏	春・夏は天候に恵まれたイベントや週末が多く、過去最高の来場者となった「たきかわ菜の花まつり」（滝川市）のほか「室蘭市開港140年・市制施行90年」記念事業などがあり、また冬も「さっぽろ雪まつり」や「千歳・支笏湖水濤まつり」などは来場者が増加したものの、5月連休後半や冬の悪天候、春の主要幹線道路の不通などにより、前年比では増加しましたが前々年には及びませんでした。
道南圏	5月の「桜回廊」イベント（北斗市）、6月の「全国城下町シンポジウム」（函館市）、江差追分大会の50周年関連行事（江差町）に加え、国際線チャーター便・定期便の回復（函館空港）や11月の道央道森・大沼公園間の開通などにより、前年比・前々年比とも増加しました。
道北圏	天候に恵まれた春・夏の道内客の増加（旭川市、富良野市など）、海水浴客の増加（留萌市）に加え、道外路線の増便（旭川空港）、機材大型化（稚内空港）などがあったものの、冬の悪天候などにより、前年比では増加しましたが前々年比では減少しました。
オホーツク圏	7月の「山の水族館」のリニューアルオープン（北見市）、道外路線の機材大型化（女満別空港、オホーツク紋別空港）、流水期間の長期化などがあった一方、冬の悪天候などにより、前年比では増加しましたが前々年比では減少しました。
十勝圏	前年10月の道東道夕張・占冠間の開通による交通アクセスの向上に加え、6月から10月まで開催された「北海道ガーデンショー」（清水町）、スポーツや食の新たなイベントなどにより、前年比・前々年比とも増加しました。
釧路・根室圏	前年10月の道東道夕張・占冠間の開通による交通アクセスの向上、道外路線の機材大型化（釧路空港）に加え、4月にグランドオープンしたアイヌシアター「イコロ」（釧路市）、7月に開催された「新・ご当地グルメグランプリ」（別海町）などにより、前年比・前々年比とも増加しました。

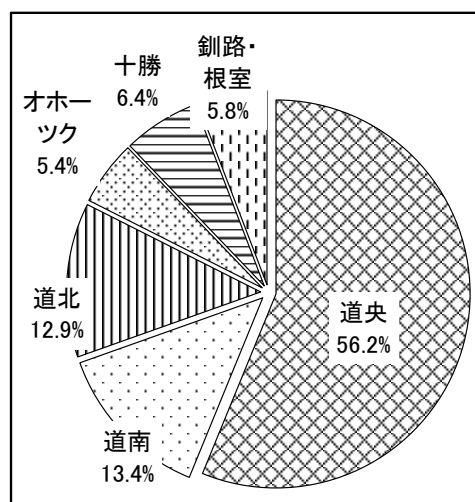
＜観光入込客数（延べ人数）の圏域別構成＞

圏域	観光入込客数	前年度比	前々年度比	構成比
道央	6,970万人	103.8%	98.4%	54.7%
道南	1,083万人	107.0%	102.3%	8.5%
道北	2,116万人	103.4%	95.7%	16.6%
オホーツク	832万人	104.1%	97.0%	6.5%
十勝	963万人	105.4%	106.6%	7.6%
釧路・根室	788万人	109.1%	103.0%	6.2%
合計	12,752万人	104.4%	99.0%	100.0%



＜宿泊客延べ数の圏域別構成＞

圏域	宿泊客延数	前年度比	前々年度比	構成比
道央	1,701万人泊	104.4%	106.1%	56.2%
道南	405万人泊	109.6%	89.2%	13.4%
道北	390万人泊	103.4%	98.1%	12.9%
オホーツク	164万人泊	103.9%	88.9%	5.4%
十勝	192万人泊	101.7%	109.0%	6.4%
釧路・根室	176万人泊	107.6%	100.7%	5.8%
合計	3,029万人泊	104.9%	101.3%	100.0%



3 市町村別

観光入込客数（実人数）を市町村別で見ると、札幌市が1,304万人（前年度比107.2%）で最も多く、次いで、小樽市660万人（同109.3%）、旭川市576万人（同106.5%）、以下、千歳市、函館市、釧路市、登別市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が1,007万人泊（前年度比105.1%）で最も多く、次いで、函館市348万人泊（同108.8%）、釧路市116万人泊（同112.7%）、以下、登別市、帯広市、倶知安町、小樽市の順となっています。

＜観光入込客数(実人数)の多い市町村＞

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,304万人	107.2%
2	小樽市	660万人	109.3%
3	旭川市	576万人	106.5%
4	千歳市	488万人	107.6%
5	函館市	450万人	109.6%
6	釧路市	334万人	111.8%
7	登別市	284万人	106.9%
8	喜茂別町	257万人	94.5%
9	帯広市	248万人	103.7%
10	洞爺湖町	224万人	111.0%
11	苫小牧市	189万人	105.4%
12	上川町	180万人	105.3%
13	富良野市	178万人	103.2%
14	七飯町	178万人	115.9%
15	石狩市	172万人	100.4%
16	白老町	170万人	98.8%
17	壮瞥町	152万人	117.9%
18	倶知安町	148万人	103.9%
19	伊達市	147万人	74.0%
20	北見市	145万人	118.8%

＜宿泊客延べ数の多い市町村＞

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	1,007万人泊	105.1%
2	函館市	348万人泊	108.8%
3	釧路市	116万人泊	112.7%
4	登別市	110万人泊	104.3%
5	帯広市	96万人泊	105.2%
6	倶知安町	87万人泊	85.3%
7	小樽市	71万人泊	110.2%
8	上川町	67万人泊	106.1%
9	旭川市	63万人泊	106.0%
10	富良野市	63万人泊	106.4%
11	洞爺湖町	50万人泊	111.0%
12	北見市	49万人泊	101.4%
13	斜里町	46万人泊	105.9%
14	音更町	46万人泊	100.9%
15	網走市	45万人泊	105.4%
16	二セコ町	45万人泊	109.8%
17	稚内市	41万人泊	116.0%
18	留寿都村	36万人泊	104.7%
19	占冠村	32万人泊	109.1%
20	室蘭市	29万人泊	98.6%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

平成24年度の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、250万1千人泊で、前年度に比べて51.3%の大幅な増加となりました。

国・地域別に見ると、台湾が87万7千人泊で全体の35.1%を占め最も多く、次いで香港が36万3千人泊で14.5%、韓国が26万6千人泊で10.6%、中国が26万4千人泊で10.5%、オーストラリアが19万1千人泊で7.7%、以下シンガポール、タイなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が178万6千人泊と全道の71.4%を占め最も多く、次いで道北圏、道南圏、十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏の順となっています。

前年度と比較すると、オホーツク圏の前年度比81.9%増をはじめ、他の5圏域でも大きく増加しました。

〈圏域別訪日外国人来道宿泊延べ数〉

(単位:人泊)

圏域	ア ジ ア								オーストラリア
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	
道央	208,449	223,856	493,961	278,516	112,432	41,895	63,346	1,437	168,983
道南	12,611	21,779	142,917	7,578	8,074	1,345	3,115	228	852
道北	20,281	11,687	122,833	32,128	22,039	3,027	11,181	82	10,107
オホーツク	6,548	3,453	25,719	14,819	4,716	1,203	1,991	37	485
十勝	6,917	2,615	49,955	21,445	15,525	3,709	1,790	51	10,651
釧路・根室	8,893	2,280	41,478	8,698	4,225	1,106	729	10	341
全道	263,699	265,670	876,863	363,184	167,011	52,285	82,152	1,845	191,419
前年度比	133.9%	144.4%	153.7%	126.4%	137.4%	186.7%	355.1%	123.0%	187.0%
構成比	10.5%	10.6%	35.1%	14.5%	6.7%	2.1%	3.3%	0.1%	7.7%

圏域	ヨーロッパ				北米		その他	計	23年度	前年度比
	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ				
道央	14,516	12,417	4,336	3,846	40,784	7,965	109,131	1,785,870	1,158,309	154.2%
道南	252	362	258	299	2,172	749	5,559	208,150	130,831	159.1%
道北	2,244	680	464	654	2,492	540	10,602	251,041	182,725	137.4%
オホーツク	411	98	305	215	856	132	3,005	63,993	35,183	181.9%
十勝	28	190	268	63	804	93	2,266	116,370	96,051	121.2%
釧路・根室	3,692	346	274	171	1,271	362	1,805	75,681	49,645	152.4%
全道	21,143	14,093	5,905	5,248	48,379	9,841	132,368	2,501,105	1,652,744	151.3%
前年度比	149.7%	158.2%	135.5%	128.3%	192.5%	153.6%	178.2%	151.3%		
構成比	0.8%	0.6%	0.2%	0.2%	1.9%	0.4%	5.3%	100.0%		

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が85万4千人泊（前年度比161.1%）で最も多く、次いで倶知安町が22万8千人泊（同177.0%）、登別市21万1千人泊（同136.6%）、函館市18万8千人泊（同155.9%）、上川町11万7千人泊（同147.5%）となっています。

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	876,863人泊	153.7%
2	香港	363,184人泊	126.4%
3	韓国	265,670人泊	144.4%
4	中国	263,699人泊	133.9%
5	オーストラリア	191,419人泊	187.0%

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	854,330人泊	161.1%
2	倶知安町	228,345人泊	177.0%
3	登別市	210,710人泊	136.6%
4	函館市	187,924人泊	155.9%
5	上川町	116,815人泊	147.5%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	121,064人泊	157.1%
2	壮瞥町	14,815人泊	159.2%
3	登別市	12,961人泊	104.3%
4	千歳市	10,934人泊	124.8%
5	函館市	10,087人泊	143.5%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	103,434人泊	151.0%
2	登別市	44,867人泊	134.0%
3	二セコ町	13,919人泊	172.1%
4	留寿都村	12,405人泊	122.2%
5	函館市	10,961人泊	177.9%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	253,281人泊	161.6%
2	函館市	137,118人泊	157.8%
3	登別市	104,937人泊	149.4%
4	上川町	75,765人泊	144.2%
5	洞爺湖町	38,829人泊	131.3%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	142,245人泊	117.2%
2	倶知安町	40,338人泊	162.5%
3	登別市	22,309人泊	99.0%
4	二セコ町	17,550人泊	139.4%
5	小樽市	16,816人泊	123.5%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	46,705人泊	145.9%
2	倶知安町	17,151人泊	181.9%
3	新得町	14,030人泊	118.9%
4	上川町	11,485人泊	106.6%
5	登別市	11,038人泊	131.1%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	127,986人泊	184.2%
2	二セコ町	15,206人泊	202.0%
3	札幌市	11,224人泊	212.3%
4	新得町	10,534人泊	207.0%
5	留寿都村	10,136人泊	217.4%

【タイの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	40,519人泊	372.5%
2	上川町	6,828人泊	410.8%
3	壮瞥町	4,436人泊	441.8%
4	登別市	3,924人泊	563.0%
5	二セコ町	3,592人泊	484.8%

Ⅲ 観光消費額単価

道内13の観光地点において実施したパラメータ調査により得られた観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

＜平成24年度 観光消費額単価＞

(単位：円)

区 分		日 帰 り	宿 泊
第1 四半期	道内容	観光	3,961 (3,786) 20,710 (19,726)
		ビジネス兼観光	2,013 (2,167) 32,338 (32,063)
	道外客	観光	9,188 (8,000) 75,843 (80,182)
		ビジネス兼観光	— (—) 59,384 (60,514)
	外国人	観光	— (—) 119,809 (99,015)
		ビジネス兼観光	— (—) 52,632 (101,726)
第2 四半期	道内容	観光	3,295 (2,868) 24,343 (20,757)
		ビジネス兼観光	2,334 (2,135) 22,413 (19,808)
	道外客	観光	22,419 (21,524) 82,402 (81,163)
		ビジネス兼観光	— (—) 30,316 (31,916)
	外国人	観光	— (—) 126,046 (132,242)
		ビジネス兼観光	— (—) 55,241 (78,327)
第3 四半期	道内容	観光	3,987 (3,964) 21,811 (20,820)
		ビジネス兼観光	4,028 (1,816) 32,788 (19,309)
	道外客	観光	20,100 (19,533) 65,361 (64,828)
		ビジネス兼観光	— (—) 42,820 (20,763)
	外国人	観光	— (—) 134,217 (146,285)
		ビジネス兼観光	— (—) 62,414 (77,998)
第4 四半期	道内容	観光	2,850 (2,775) 20,673 (20,378)
		ビジネス兼観光	4,425 (2,703) 24,716 (28,229)
	道外客	観光	23,143 (24,100) 74,867 (74,208)
		ビジネス兼観光	5,582 (—) 26,458 (30,778)
	外国人	観光	13,330 (—) 119,419 (117,045)
		ビジネス兼観光	7,423 (—) 65,442 (57,878)

※ () 内の数値は、前年度の単価です。

「観光消費額単価」は、道内13の観光地点で実施したパラメータ調査により得られたサンプルから算出しています。

なお、H23年度から、外国人の「観光」については、上記の道内13の観光地点に加え、新千歳空港において実施した調査により算出していますが、「ビジネス兼観光」はサンプルが少ないため、観光庁から提供された単価を掲載しています。

また、H24年度第4四半期からは、道内容、道外客、外国人客とも、「ビジネス兼観光」は観光庁から単価が提供されることとなったため、その値を掲載しています。

北海道観光入込客数調査報告書 [平成24年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

平成25年9月

北海道経済部観光局観光地づくりグループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号（代表）011-231-4111 内線 26-564

（直通）011-204-5303

FAX番号（直通）011-232-4120
